

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	論理学		担当者 資格・役職等	短期大学非常勤講師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護師として社会的責任のある言語表現ができることをねらう。				
授業の概要	<p>社会的責任を担う公的な文章の書き方、公的な話し方の場面を設定する。題材は新聞記事などを使う。</p> <p>1 文章の書き方 説明、解説、報告 等</p> <p>2 話し方 質問、指示、問題提起 等</p> <p>具体的に認識・思考・言語技能を十分に働かせて表現する演習・講義を工夫し、自己評価・客観的評価によって、自身の公的な言語表現を高め、論理的思考を身につける。</p>				
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2時間</p> <p>○授業の全体計画を説明 社会的責任のある公的な言語表現としての、書くことばの特性、話すことばの特性の概括的理解</p> <p>○授業の基底</p> <p>①読解力・傾聴力を身に着ける</p> <p>②作文力を高める。</p> <p>③話し方とプレゼンテーションの力を高める</p> <p>④レポート提出、スピーチの実践 ⑤授業記録により評価する</p> <p>2 文章の書き方 18時間</p> <p>①文の書き方の原則を学ぶ 要約文、説明文、レポート、小論文等の書き方を学ぶ。新聞、書籍、テレビ、ネット等諸メディアの特性と利用法に理解を深める</p> <p>②要約文、説明文、レポート等を実際書いて講師に提出、講師が添削、評価する</p> <p>3 話し方とプレゼンテーション 8時間</p> <p>①看護師に必要な話し方、非言語表現を学ぶ。効果的なスライドやレジメの作り方、質疑応答、討論についても学習する</p> <p>②目的に応じたスピーチ、対話、グループでの話し合い、討論を実際に行ってみて、評価し合う</p> <p>4 自己評価の総括 2時間</p> <p>社会的責任を担う公的な文章の書き方、公的な話し方について</p>				
テキスト	「スタートアップセミナー 学修マニュアル なせば成る！」 山形大学編（山形大学出版会）				
参考文献	「井上ひさしと141人の仲間の作文教室」井上ひさしほか（新潮文庫）				
成績評価の方法	授業記録・小論文 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	短期大学非常勤講師が論理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	情報科学		担当者 資格・役職等	専門学校非常勤講師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護研究等、実際に活用できる知識と技術を習得する。				
授業の概要	情報の管理・利用を正しく理解し、情報の処理、表現方法について実技を通して学ぶ。				
授業計画	<p>1. 情報科学の基礎およびパソコン実習 ハードウェア・ソフトウェア概要とキータッチ実習 2回 Word入門 5回 Excel入門 4回 PowerPoint入門 2回</p> <p>2. 医療における情報システムと文献検索の方法 1回</p> <p>試験</p>				
テキスト	看護情報学 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	実技試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	専門学校非常勤講師が情報科学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	生物学		担当者 資格・役職等	大学准教授	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	<p>高校理科選択制や個人差による生物学の知識・理解力の差を補償するとともに、専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解することを目標の1つとする。また、多様な生物の存在のおかげで人間が地球という環境で生きていくことが可能となっていることの意味をもう1つの目標とする。</p>				
授業の概要	<p>講義内容は、1) 生体を構成する物質、2) 細胞の構造と機能、3) 人体を構成する組織・器官、4) 生体の恒常性、5) 生体の発生と遺伝、6) 生命の進化、7) 多様な生命の存在とその意義等を順次学習する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.生物学を学ぶ意義 2.生体を構成する物質 原子、分子、イオン結合、共有結合の基礎的理解 3.生体を構成する物質 炭水化物、脂質、タンパク質、核酸等の概説 4.細胞の構造と機能 細胞内小器官の概説、浸透圧・物質の局在と移動の解説 5.人体を構成する組織・器官 消化器系、心臓血管系、呼吸器系、泌尿生殖系 6.人体を構成する組織・器官 骨格系、筋肉系 7.人体を構成する組織・器官 血液中の成分、免疫系 8.人体を構成する組織・器官 神経系 ニューロン、感覚器の基本的解説と感覚情報処理 (視覚系、聴覚系、平衡感覚、嗅覚、味覚) 9.人体を構成する組織・器官 神経系 高次脳機能の解説 (体温調節、多重人格、記憶学習、認知症) 10.生殖と発生 胚発生、内臓の発生、脳・神経系の発生分化 11.細胞分裂と遺伝 体細胞分裂・減数分裂と染色体の分配の解説 12.遺伝と遺伝病 メンデルの遺伝の法則、血液型とその遺伝、赤緑色覚異常、染色体異常他遺伝病解説 13.生命の進化と地球環境の変化 藍藻による好気的環境の出現、ミトコンドリア共生説解説、地球温暖化のもたらす危機 14.多種多様な生命の存在とその意義 多種多様な生物と地球環境、薬開発 				
テキスト	*プリント配布				
参考文献					
成績評価の方法	レポートと最終テストで評価する。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	神経生物学を専門とする大学准教授が生物学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	心理学		担当者 資格・役職等	臨床心理士	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	心や行動の基礎を学び、人間を多面的に理解し、心理的援助について洞察を深める。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学とは <ul style="list-style-type: none"> 1. 心とは・心理学の歴史 ・ 心理学の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 2. 知覚 3. 記憶 4. 思考：概念形成 5. 発達：乳幼児期から青年期 6. 発達：成人期から老年期 7. 学習 8. 言語・コミュニケーション 9. 対人認知 ・ 人格へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 10. 人格：知能・性格理論 11. 人格：心理検査 12. 防御規制・ストレスマネジメント 13. カウンセリングの基礎・傾聴 14. まとめ 15. 試験 				
テキスト	「新体系看護全書 心理学」 (メヂカルフレンド社)				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	病院臨床心理士が心理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人間関係論 I		担当者 資格・役職等	臨床心理士	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	看護ケアや福祉援助を行うに際して人間関係の諸問題は大きな課題である。そこで多様な人間関係の性質や傾向をライフサイクルや社会的状況に照らし合わせて学ぶ。さらに人間関係をよくする方法も考えていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の基礎 2. 人間関係の中の自己 3. 出会いからの人間関係の展開① 4. 出会いからの人間関係の展開② 5. 非言語的コミュニケーション 6. 言語的コミュニケーション 7. 好意的人間関係 8. 嫌悪的人間関係 9. 支配の人間関係 10. 服従の人間関係 11. 攻撃の人間関係 12. 集団の中の人間関係① 13. 集団の中の人間関係② 14. 人間関係をよくする方法 				
テキスト	人間関係論 (医学書院)				
参考文献	なし				
成績評価の方法	授業中のミニレポートと筆記試験により評価 合計60点以上で合格とする。				
授業科目の教育内容	スクールカウンセラーや企業内相談室での経験を持つ臨床心理士が人間関係論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	人間関係論Ⅱ		担当者 資格・役職等	臨床心理士 保育士	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	<p>看護ケアや福祉援助を行うに際して人間関係の諸問題は大きな課題である。そこで多様な人間関係の性質や傾向をライフサイクルや社会的状況に照らし合わせて学ぶ。さらに人間関係をよくする方法も考えていく。</p>				
授業計画	1～7. コミュニケーション技術・再構成演習				
テキスト	人間関係論 (医学書院)				
参考文献	なし				
成績評価の方法	授業中のミニレポートと筆記試験による 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	臨床心理士及び保育士資格を持つ講師が人間関係論について教育、演習を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	英語 I		担当者 資格・役職等	高等学校教諭免許	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	英語に親しみ、看護師として必要な日常英会話を学び、英語に対する興味を高める。				
授業の概要	看護場面での英会話（実技）				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction & Registration 2. Basic grammar-“Be-doshi” 3. ”Jo-doshi””would/could/may” 4. ”A/The”+”zenchishi””at/in” 5. Questions with “Where”+ “Be-doshi” 6. Questions with all”Wh”words 7. Introduce”ipan-doshi” 8. Questions w/” ”ipan-doshi””Do/Does 				
テキスト	クリスティーンのやさしい英会話 医学書院				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元高等学校教諭が英語について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	英語Ⅱ		担当者 資格・役職等	高等学校教諭免許	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	英語に親しみ、看護師として必要な日常英会話を学び、英語に対する興味を高める。				
授業の概要	看護場面での英会話（実技）				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Reading comprehension 2. "Genzai-shinkokei" Pres. Progressive 3. "Domeishi" Gerunds 4. Demonstrative Pronouns 5. "Fukushi" Adverbs of Position 6. Giving directions 7. "Have to/Has to" + "Kateiho" 8. "Kakokei" Past tense work 9. "Meirei" Imperatives 10. Telling time + Letter writing 11. Telephone communication 12. Tense review w/ "Genzai kanryo" 13. Calendar work + "Kako kanryo" 14. Number work + Tense review 15. General review 				
テキスト	クリスティーンのやさしい英会話 医学書院				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元高等学校教諭が英語について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	体育		担当者 資格・役職等	高等学校教諭免許	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	45時間
到達目標	人間形成を目標とする。 体育実技の実践を通じて、健康生活に必要な知識の修得と健康体力の向上を図る。				
授業の概要	グループゲームを行い、人間関係の絆を深め、協力性や調和力の発達を促す。 また、授業を通して心的緊張の解消の場とする。				
授業計画	(内 容)		(場 所)		
	1. 体育理論・オリエンテーション		教 室		
	2. 仲間づくりレクゲーム、ストレッチ、 体操、体力測定		サンライフ長野体育館		
	3. グループ分け バレーボール基礎練習		〃		
	4. 〃		〃		
	5. バレーボール基礎練習。パス、レシーブ		〃		
	6. バレーボール基礎練習。パス、レシーブ、サーブ		〃		
	7. 簡易ゲーム、審判法と運営について		〃		
	8. ゲーム。グループ別リーグ戦		〃		
	9. リーグ戦（コンビネーションプレイ）		〃		
	↓ 〃		〃		
	18. バレーボールリーグ戦		〃		
	19～21 マレットゴルフの基礎打法とルール		市営MG場		
	22. まとめ		教 室		
	23. 試験		〃		
テキスト					
参考文献	スポーツ医学（基礎と臨床）（朝倉書店） 運動処方（ベースボールマガジン社）				
成績評価の方法	平常点（出席点）、体育理論点、体力測定、基礎技術点、筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元高等学校教諭が体育について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	解剖生理学 I		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員・専任教員 (臨床経験13年・19年)	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	人体の構造と機能について、看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを目指して学習していく。				
授業の概要	看護師は暮らしの中でのひとの動作が、どのようなからだの仕組みによってなされているかを知っていてこそ援助できる。解剖生理学の学習が看護援助につなげられるように、「生活行動からみるからだ」をいう枠組みで授業を展開していく。解剖生理学 I では、おもに「食べる」「排泄する」「動く」「調節する」について学習していく。				
授業計画	<p>(1～4回) 人体の構造と機能について何を、どのように学ぶか 生きているとはどういうことか 細胞とは 調節する 「ホメオスタシス」「体温と調節」 調整する 「外部環境からからだを守る役割の皮膚」 調整する 「からだを守る免疫力」</p> <p>(5～10回) 動く 「姿勢」 動く 「神経からの指令で動く」 動く 「意図的な運動と意図しない運動」</p> <p>(11～14回) 食べるとは 消化と吸収 消化と吸収 排泄する「尿意と排尿、便意と排便」 排泄する「体液調節の機構」</p> <p>(15回) 筆記試験</p>				
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 2 「病態生理学」 医学書院				
参考文献	看護形態機能学 日本看護協会出版 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版				
成績評価の方法	授業参加度、筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師と看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が解剖生理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	解剖生理学Ⅱ		担当者 資格・役職等	医師、医師 専任教員、専任教員 (臨床経験18年、7年)	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	人体の構造と機能について、看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを目指して学習していく。				
授業の概要	<p>ヒトはどのような「からだ」のしくみにより生命を維持しているかを、看護師は知っていてこそ援助できる。<u>解剖生理学の学習が看護援助につなげられるように、「からだのしくみを知る」という枠組みで授業を展開していく。</u>解剖生理学Ⅱでは、おもに「呼吸・循環のしくみ」「内分泌・代謝のしくみ」「脳・神経のはたらき」「生殖のしくみ」「感覚器のはたらき」について学習していく。</p> <p>* 構造：しくみ 機能：はたらき</p>				
授業計画	授業内容		授業時間(回数)	担当	試験配点
	1. 循環のしくみ(心臓と血管) 1) 血液と血管・心臓の構造 2) 心臓の拍出機能 3) 心電図 4) 血液の循環		8時間 (4回)	専任教員	30
	2. 呼吸のしくみ 1) 呼吸器のはたらき (1)ガス交換と運搬 (2)肺の循環と血流 (3)呼吸運動の調節		8時間 (4回)	専任教員	30
	3. 内分泌と代謝のしくみ 1) ホルモン分泌のしくみ 2) 視床下部一下垂体系のはたらき 3) 甲状腺と副甲状腺のはたらき 4) 副腎皮質・副腎髄質のはたらき 5) 糖代謝のしくみ 6) 脂質代謝のしくみ		6時間 (3回)	医師	20
	4. 脳・神経のはたらき 1) 脳・神経のはたらき 2) 脳循環のしくみ 3) 髄膜・髄液のはたらき 4) 運動制御のしくみ		6時間 (3回)	医師	20
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 「解剖生理学」(医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進2 「病態生理学」(医学書院)				
参考文献	看護形態機能学 日本看護協会出版				
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	糖尿病内科医師及び神経内科医師、また看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員2名が解剖生理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	生化学		担当者 資格・役職等	医師 管理栄養士	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p><生化学>【到達目標】</p> <p>◇各臨床科目を理解するために役立つ、生化学の知識を身に付けてもらうため、日常診療や看護で使われる頻度の高い分野に時間をかけます。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>◇テキスト「わかりやすい生化学」の内容にそって授業を進めます。</p> <p>◇評価は筆記試験にて行いますが、授業で取り上げなかった内容でも、テキストに記載のあるものは出題することがあります。自習能力をみる方法と考えて下さい。</p> <p><栄養学>【到達目標】</p> <p>食事は一生を通し毎日行なわれている。学習を通し口から食べる食事の大切さを患者さんに伝えて欲しいと思う。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>生活習慣病が、日頃からの食生活に密接に関係していることからどのような食生活をしていかなければいけないのか？どのように食品を組み合わせるべきか？栄養素の働きは何か？を自分自身の食生活を振り返りながら学習していく。</p> <p>チーム医療の中にはNST（栄養サポートチーム）の活動があり、患者さんの栄養状態を計測・検査などをアセスメントし、評価していく。</p>				
授業計画	<p><生化学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体分子と細胞、タンパク質の性質 2. 酵素の性質と働き、生体内における糖質の代謝 3. 生体内における脂質の代謝、アミノ酸およびタンパク質の代謝 4. 生体内における核酸の役割、体液 5. ホルモン、ビタミン 6. 内部環境の恒常性、消化・吸収と栄養価 7. 血液、尿 8. 免疫 9. 各臓器の役割 <p>-----</p> <p><栄養学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の日々の食事を記録し、反省点、改善点があるか考察する。 2. 自分の1日の「推定エネルギー必要量」を算出する。望ましい運動量も算出する。 3. 栄養素の役割について 4. 食品の消化・吸収について 5. 栄養アセスメントについて（NST）について 6. 特定保健指導について 7. ライフステージの栄養について （妊娠期・授乳期・乳幼児・幼児期・学童期・成人期・老年期） 8. 疾患と栄養 9. 経腸栄養について 				
テキスト	「わかりやすい生化学」（ヌーヴェルヒロカワ） 「わかりやすい栄養学」（ヌーヴェルヒロカワ）				
参考文献	「コンパクト生化学」（南江堂） 「ビジュアル生化学・分子生物学」（日本醫事新報社） 「新臨床医のための分子医学シリーズ・糖尿病の最前線」（羊土社）				
成績評価の方法	筆記試験 配点／生化学60点 栄養学40点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び病院管理栄養士が生化学の各分野について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護病態論総論		担当者 資格・役職等	医師、医師 専任教員（臨床経験13年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	疾病の成り立ち、症状のメカニズムを理解する。				
授業の概要	疾病の成り立ちの理解が深まり看護病態論の各論に学び繋がるよう、症状のメカニズムを学ぶ。機能障害の看護の学習に繋がるよう、症状のメカニズムを理解する。				
業計画授	1. 病態生理学の基礎組織 1) 循環障害 (1) 虚血と梗塞 (2) 充血とうっ血 (3) 浮腫 (4) 出血 2) 細胞組織の障害 (1) 炎症 2. 体液調整のしくみと病態生理 1) 酸・塩基平衡の異常のメカニズム (1) 呼吸系調整の異常 ・呼吸性アシドーシスと呼吸性アルカローシス (2) 代謝性調整の異常 ・代謝性アシドーシスと代謝性アルカローシス < 4 H > ----- 1. 循環のしくみと病態生理 1) 心臓のポンプ機能と病態生理 (1) 心臓の拍出機能の障害 2) 血圧調整と末梢循環のしくみと病態生理 (1) 血圧調整と末梢循環の障害 2. 内分泌・代謝の仕組みと病態生理 1) 糖代謝とその異常 (1) 糖代謝とそのしくみ (2) 糖代謝異常 2) 脂質代謝とその異常 (1) 脂質代謝のしくみ (2) 脂質異常症 < 8 H > 症状と疾患のつながりを考える < 2 H >				
テキスト	病態生理学		医学書院		
参考文献	臨床看護総論		医学書院		
成績評価の方法	筆記試験・出席状況・授業態度・小テスト 筆記試験： 「病態生理学の基礎組織」～「体液調整のしくみと病態生理」30点 「循環のしくみと病態生理」～「内分泌・代謝の仕組みと病態生理」50点 専任教員/出席状況・授業態度・小テスト20点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が看護病態論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護病態論 I		担当者 資格・役職等	医師・医師 医師	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護に必要な各疾患の医学的知識を理解する。				
授業の概要	<p>呼吸器・血液・感覚器疾患において臨床で遭遇する頻度の高い疾患の理解、症状とその病態生理・検査・診断・治療の理解を深める。</p> <p>レントゲンフィルムの供覧を通して解剖を理解する。</p>				
授業計画	<p><呼吸器・血液></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患の症状と病態生理 2. 呼吸器疾患の検査 3. 気管支喘息他 4. 肺炎・肺結核症 5. 肺腫瘍 6. 慢性閉塞性肺疾患 7. 気胸・肺線維症他 8. 血液疾患の症状と病態生理、検査 9. 10. 再生不良性貧血・白血病・悪性リンパ腫 <p style="text-align: right;">(18時間)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><耳鼻咽喉></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療 2. 鼻疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療 3. 咽喉頭疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療 <p style="text-align: right;">(6時間)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><眼></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 眼疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療 <p style="text-align: right;">(4時間)</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 2 「呼吸器」 4 「血液・造血器」 13 「眼」 14 「耳鼻咽喉」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 配点／呼吸器・血液：80点 耳鼻咽喉：10点、眼10点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び眼科医師、耳鼻科医師が看護病態論の各分野について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護病態論Ⅱ		担当者 資格・役職等	医師・医師 医師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護に必要な各疾患の医学的知識を理解する。				
授業の概要	<p><循環器></p> <p>テキストの内容に沿って講義を進めるが、本テキストの内容は極めて多岐にわたり、すべての項目を網羅することはできない。解剖や生理に関する基礎的な事項をしっかりと理解し、その上で頻度の高い疾患を中心に講義をすすめる。初めて耳にする処置検査方法や疾病が殆どと思うが、大筋でもわかるようにして今後の実践の場で役立つようにして頂きたい。</p> <p><腎・泌尿器></p> <p>腎・泌尿器・男性生殖器の解剖生理を理解してもらおう。</p> <p>その結果を腎機能障害（腎炎、慢性腎不全）、尿路感染症、尿路結石症、腫瘍性病変の理解に役立ててもらおう。又、最近の在宅療養をすすめていく方向性から、尿路管理に応用してもらえればと思っている。</p> <p><女性生殖器></p> <p>女性生殖器疾患において臨床で遭遇する頻度の高い疾患の理解、症状とその病態生理・検査・診断・治療の理解を深める。</p>				
授業計画	<p><循環器></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器のしくみと働き：病態生理につながる内容の復習 2. 症状とその病態生理：患者の訴えをきき病気を考えるうえで症状の理解は重要である。 <p>検査と治療・処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 疾患の理解：虚血性心疾患 4. 疾患の理解：心不全 高血圧 5. 疾患の理解：不整脈 6. 疾患の理解：弁膜症 7. 疾患の理解：先天性心疾患 (14時間) <hr/> <p><腎泌尿器></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎泌尿器のしくみと働き:病態生理につながる内容の復習 ・腎機能、尿路機能、男性生殖器機能 2. 症状とその病態生理（ことばの理解） 3. 疾患とその検査・治療 ・腎炎及び腎不全 ・尿路、男性生殖器感染症 ・尿路、男性生殖器腫瘍（前立腺肥大症も含む） ・尿路結石症、その他（神経因性膀胱、尿失禁、その他）（10時間） <hr/> <p><女性生殖器></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子宮筋腫・卵巣のう腫の症状と病態生理・検査・診断・治療 2. 子宮がんの症状と病態生理・検査・診断・治療 (4時間) 				
テキスト	系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3「循環器」 8「腎・泌尿器」9「女性生殖器」（医学書院）				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 配点／循環器50点、腎泌尿器40点、女性生殖器10点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び泌尿器科医師、婦人科医師が看護病態論の各分野について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護病態論Ⅲ		担当者 資格・役職等	医師・医師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護に必要な各疾患の医学的知識を理解する。				
授業の概要	<p><消化器></p> <p>消化管、及び肝・胆・膵の主だった疾患についての病態生理ならびに診断、治療の理解を深める。</p> <p><代謝・内分泌></p> <p>代謝内分泌系疾患の症状は多岐にわたり、つかまえ所の無い面が多い。各々の内分泌器官の解剖・生理を中心に病態をなるべく理論的に理解できるよう努める。</p>				
授業計画	<p><消化器></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化管のしくみ(構造)と働き(機能)の概要及び疾患総論 2. 食道疾患 3. 胃疾患1 (腫瘍を中心として) 4. 腸疾患1 (腫瘍、炎症) 5. 腸疾患2 (腸閉塞症、腹膜炎、ヘルニア、肛門疾患) 6. 肝疾患 (肝炎、肝硬変、肝癌) 7. 胆・膵疾患 <p style="text-align: right;">(14時間)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><内分泌・代謝></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌総論 視床下部・下垂体の解剖・生理 2. 甲状腺の解剖・生理、副腎の解剖・生理 3. 内分泌の検査、性ホルモン生理解剖 4. 下垂体の疾患、甲状腺機能亢進症 5. 甲状腺結節性病変、副甲状腺疾患、副腎皮質疾患 6. 副腎髄質の疾患、糖尿病の病態・診断・治療、糖尿病合併症 7. 脂質代謝異常、核酸代謝異常、肥満 <p style="text-align: right;">(14時間)</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5「消化器」 6「内分泌・代謝」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 配点／消化器50点、代謝・内分泌50点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び小児科医師が看護病態論の各分野について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護病態論IV		担当者 資格・役職等	医師・医師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護に必要な各疾患の医学的知識を理解する。				
授業の概要	<p><運動器></p> <p>指定テキストに沿い疾患の病態や治療に関するスライドを提示しながら講義を進める。ただし、講義の内容が少しでも現場でも活用できるよう、臨床で使用されている用語や略語、疾患の社会的背景、テキストには記載されていないが定着しつつある新しい情報等を加える。よって、授業を聴講せずテキストだけで自習しても理解しにくい。</p> <p><脳神経></p> <p>最も身近な脳神経疾患である、脳血管障害・痴呆・頭部外傷を軸に解剖生理・病態生理を比較的理解しやすく説明する予定。</p> <p>頭蓋内病変を示唆する特徴的な症状の理解を深め、日常の仕事に役立てるようにしたい。</p>				
授業計画	<p><運動器></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷性疾患（骨折・脱臼等） 2. 先天性疾患 3. 炎症性疾患 4. 腫瘍 5. 筋・腱・神経の疾患 6. 上肢・下肢・脊椎の疾患 <p>※スライド（全講義）・ビデオ・手術材料 供覧</p> <p style="text-align: right;">(14時間)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><脳神経></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖・生理（中枢・末梢） 2. 意識障害、高次機能 3. 運動機能障害、感覚機能障害 4. 脳圧亢進、髄液の話 5. 脳血管障害（脳出血・脳梗塞）、頭部外傷、脳腫瘍 6. 痴呆症（脳血管性、アルツハイマー病、正常圧水頭症） 7. 末梢神経障害、変性疾患他 <p style="text-align: right;">(14時間)</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10「運動器」 7「脳・神経」（医学書院）				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 配点／運動器50点、脳神経50点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	整形外科医師及び脳神経外科医師が看護病態論の各分野について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	微生物学		担当者 資格・役職等	医師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	今後疾患を理解するために重要な微生物に対する理解を深める。				
授業の概要	<p>テキストには、多種の微生物が取り上げられていますが、国家試験で問われている微生物にはかなり傾向があります。</p> <p>かつては、大腸菌－グラム陰性桿菌といったいわゆる暗記問題が多く出題されていましたが、細菌は臨床上も重要と思われる事項が質問されています。これらを中心にして、プリントを使用し講義します。</p> <p>今後勉強する多くの疾患を理解するうえで役立つような講義を心がけます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物とは何か、－細菌とウイルスの比較 2. 感染における宿主と微生物の相互関係 3. 感染経路、－STD(特にクラミジア) 4. 免疫とは何か、－自動免疫と受動免疫 5. 感染症の予防、－梅毒と肝炎ウイルス 6. 滅菌と消毒 7. 食中毒 8. 腫瘍ウイルス 9. 細菌各論 10. ウイルス各論 11. 真菌、原虫各論 				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 「微生物学」(医学書院)				
参考文献	メディサイトクイックマスターブックス2 「微生物学」(医学芸術社)				
成績評価の方法	筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	産婦人科医師が微生物学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	総合医療論		担当者 資格・役職等	医師・医師 看護師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	保健・医療・福祉の意義について学び、総合的な見方を養う。				
授業の概要	現代医療の諸問題について学ぶ。				
授業計画	1. 医療と看護の原点 2. 医療の歩みと医療観の変遷 3. 私達の生活と医療 4. 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題 5. 成熟する社会と人々の意識改革 6. 医療を見つめなおす新しい視点 7. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 試験				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 「総合医療論」 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 「緩和ケア」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	レポート、筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	消化器外科医師及び緩和ケア病院の医師・看護師が総合医療論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	社会福祉と社会保障		担当者 資格・役職等	社会福祉士	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	<p>今日「社会福祉基礎構造改革」が漸次推進される中で、社会福祉のありようは今後さらに多様な変化が予想され、そのつど単に知識として取り入れるのみでなく、社会福祉が対応している生活問題に直面し、苦悩している患者・家族等に対して、真に共感し得る基本的姿勢を育むことが重要であり、医療と福祉が地域社会の中で協働して取り組む地域医療・地域福祉の方向をこの授業の中で感じ取り身につけていくことを目指します。</p>				
授業の概要	<p>長寿化の進行によって人口の高齢化は一層進み、一方で出生率は長期的にも1.35程度で推移するであろうという推計が示され、進む少子化により我が国の総人口はかなりのテンポで減少していくことが明らかとなっております。高齢人口と働く世代のバランスが崩れ、社会保障制度全体をどのように持続させて行くかが大きな社会的課題となっております。このような、患者・国民を取り巻く生活環境の変化に対応する諸制度の整備・拡充が進められているものの、年金問題をはじめ、国民の医療及び福祉を含む社会保障制度全体の維持・持続は大変難しい局面を迎えていると言えるでしょう。</p> <p>今日生活保護の受給率・受給者の増加が社会問題となっておりますが、生活保護開始理由で圧倒的多数を占めるのが、一家の働き頭（世帯主）の病気・ケガによるものであることが示すように、今日多くの国民が貧困と背中合わせで日々の生活を送っていることが推察されます。</p> <p>そのような国民の生活問題・福祉問題の直接の誘因となる病気やケガ等において、予防、治療、リハビリテーション…に関わる医療従事者、とりわけその中でも患者と接する場面を最も多く持つ看護師には大きな期待と役割が課せられるようになってきています。すなわち看護職にあっても社会福祉に対する認識を一層深め、時事刻々変容、進化するその内容を正しく理解し、患者・国民の医療、保健、福祉、そして生活の向上に寄与していくことが、看護という業務に従事する上での重要な課題として提起されてきています。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、社会保障制度、社会福祉の法制度、現代社会の変化と社会保障・社会福祉 2、医療保障 3、介護保険制度 4、公的扶助（生活保護）制度 5、高齢者福祉、児童福祉 6、障害者福祉 7、母子保健、婦人保護、その他の福祉 8、試験 				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 「社会保障・社会福祉」 医学書院				
参考文献	<p>厚生 の 指 標 ・ 国 民 衛 生 の 動 向 （ 厚 生 統 計 協 会 ）</p> <p>社会 保 障 の 手 引 （ 中 央 法 規 出 版 ）</p>				
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元社会福祉士が社会福祉と社会保障について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	公衆衛生と地域保健		担当者 資格・役職等	保健所長	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	健康に寄与する要因と健康づくりを推進する方法の理解。				
授業の概要	健康に寄与する要因を知り、自分自身、家族、職場、地域の健康づくりを推進する方法について学ぶ。				
授業計画	1. 公衆衛生の定義 2. 健康指標 3. 母子保健 4. 成人・老人保健 5. 精神保健 6. 環境・食品 7. 感染症 試験				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 「公衆衛生」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	保健所所長が公衆衛生と地域保健について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護関係法規		担当者 資格・役職等	保健所総務課長	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	看護職としての法的責任を自覚すると共に、職業人としての身分の保証、権利が守られていることを理解し、看護を実践する上で対象に必要な法の活用法を学ぶ。				
授業計画	1. 保健師助産師看護師法 2. 保健医療と法 3. 保健衛生法規 4. 生活衛生法規 5. 薬事法規 6. 労働関連法規 試験				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度				
参考文献					
成績評価 の方法	筆記試験 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	保健所総務課長が看護関係法規について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護学概論		担当者 資格・役職等	教務主任（臨床経験12年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	看護学全般に対する学問的基盤の土台を形成するため、「看護とはなにか」について、看護の理念、看護実践の原理と倫理、看護の対象となる人間とその健康、健康障害の経過、看護の提供者である看護職者の教育・制度・組織、看護に対する社会的要請などの多角的な観点から理解する。				
授業計画	1. 看護とはなにか （准看護師と看護師の違いから） 2. 看護とはなにか （看護の本質、変遷、看護の役割と機能） 3. 看護の対象としての人間 （人間の欲求、生活者としての人間） 4～5. 健康関連行動 （健康の概念、対象者の全体像） 6～8. 看護の提供者 （職業としての看護、看護と法律、 看護職の養成制度、看護職者の倫理） 9～10. 看護の主要概念 （人間・健康・環境・看護） 11. 看護の提供の仕組み （サービスとしての看護） 12. 広がる看護の活動領域（看護における国際化の視点） 13～14. 健康障害を持つ人々に共通する経過の特徴 （健康の段階） …テキスト*				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 1 「看護学概論」（医学書院） *基礎看護学 4 「臨床看護総論」（医学書院）				
参考文献					
成績評価の方法	授業参加度・課題レポート・筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院等での臨床経験がある教務主任が看護学概論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	基礎看護技術 I		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験7年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	事例を用い、看護における問題解決法のプロセスを学ぶ。				
授業計画	<p>試験を含む全15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の定義 ・看護過程と看護理論 ・根拠に基づく看護とは ・看護過程の展開（講義・演習） <p>まとめ・試験</p> <p>詳細は授業開始時にお知らせします。</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術 I」（医学書院）				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 I 「臨床看護総論」（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎「病態生理学」（医学書院）				
成績評価 の方法	筆記試験、授業参加度、提出物 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	看護師として病院などでの臨床経験を持つ専任教員が看護技術について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	基礎看護技術Ⅲ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験7年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	科学的根拠に基づいて看護が実践できる基礎的能力と、看護師として必要な判断力（問題解決能力・行動力・推論力）を身につける。				
授業の概要	<p>フィジカルアセスメントとは、“何を、どうみるか”を「考える」プロセスがあつて成り立つものである。そしてそのプロセスにおいては、クリティカルシンキングとリフレクションのスキルを必要としている事を重視し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる基礎的能力と、看護師として必要な判断力（問題解決能力・行動力・推論力）を身につけるために、事例を活用して学ぶ。</p>				
授業計画	<p>試験を含む15回</p> <p>学生と共に授業を組み立てる方針の為、示すのは大枠の内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメントはどんなことか ・クリティカルシンキングとはどんな思考か ・リフレクションスキルを磨こう ・事例を使ってフィジカルアセスメントにトライ ・フィジカルイグザミネーションの基本的な技術 ・フィジカルアセスメントの実践を通して確認 <p>上記のような構成のもと、学生の意見・要望を取り入れて内容の詳細を決める。 詳細は授業開始時にお伝えしていく。</p>				
テキスト	フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる (医学書院)				
参考文献	「看護技術プラクティス」(学研)				
成績評価の方法	出欠席、授業・演習参加度、提出物、筆記試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が看護技術について教育を行う科目				

学科	第2看護学科	授業の方法	講義・演習
授業科目	基礎看護技術Ⅳ	担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験15年）
開講時期	1年次後期	単位数	1単位
			時間数
			15時間
到達目標	基本的な考え方を学び感染防止に必要な知識・技術を習得する。		
授業の概要	人々の健康を守るという看護師の役割を果たす為に、感染防止対策について熟知し、実践することはもちろん、それらの知識・技術を常に更新する努力が求められる。		
授業計画	1、感染防止の基礎知識 2、標準予防策（スタンダードプリコーション） 手指衛生（手洗い・手指消毒） 防護用具 周囲環境対策 器材・廃棄物の取り扱い 血液媒介病原体対策 適切な患者の配置 3、感染経路別防止策 飛沫感染防止策 空気感染防止策 接触感染防止策 4、洗浄・消毒・滅菌 5、無菌操作（演習も含む） ・感染経路を遮断するための技術 滅菌包装のあけ方 滅菌袋の内袋の取り出し方 滅菌手袋の着用の仕方 摂子の取り出し方 鉗子・摂子の取り扱い（滅菌物の受け渡し） ガーゼの取り出し方 ・感染経路を遮断する方法 隔離・ガウンテクニック 6、感染性廃棄物の取扱い 7、感染防止における看護師の行動 カテーテル関連血流感染対策 針刺し防止策 試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」 (医学書院)		
参考文献	「看護技術プラクティス」(学研)		
成績評価の方法	授業参加度、筆記試験、インパクトシートなど 合計60点以上を合格とする。		
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が看護技術について教育を行う科目		

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	成人看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験19年） 保健師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p><概論></p> <p>「成人期にある人の特徴と健康増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる基礎的能力を養う」ことを目的に行なう。まず始めに、成人期はどのような年代であるか知り、人生の中で長い成人期を看護の立場から青年期、壮年期、向老期と3期に分け、それぞれの発達課題を学ぶ。そして、成人期は働き盛りの年代として、また次に訪れる老年期に先立つ年代としてとらえ、成人期にある人々を看護する立場に立って観察、判断するための視点とする。成人各期の身体的・社会的・心理的な特徴を知り、そこから保健上の問題を学ぶ。</p> <p><保健></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人保健問題の動向(人口、平均寿命、主要死因別死亡の年次推移、年齢階級別死亡数、主要傷病別、受療率の年次推移)と保健対策を理解する。 ・生活習慣病の発生要因、予防方法について、看護の役割等を理解する。 ・成人保健と、職場の健康管理(労働衛生)の方策について、看護の役割と関係づけながら理解する。 				
授業計画	<p><概論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護概論の構成 ライフサイクルからみた成人期 成人期の区分 発達課題 2. 日本人のライフサイクルとライフスタイル 3. 青年期の特徴 発達課題 保健問題 4. 壮年期の特徴 発達課題 保健問題 向老期の特徴 発達課題 保健問題 5. 成人学習の特徴と看護 6. ストレスコーピング理論 7. 危機理論 成人期の健康問題解決へ向けての看護の役割 (専任教員) <hr/> <p><保健></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人保健問題の動向と関連要因 2. 成人を対象にした保健政策 3. 成人を対象にした健康教育 4. 生活習慣病とその発生要因、予防方法、看護の役割 5. 生活習慣病とその発生要因、予防方法、看護の役割 6. 成人保健と労働 7. 職業と保健、家事労働と保健 (保健師) 				
テキスト	ナーシング・グラフィカ成人看護学①「成人看護学概論」(メディカ出版)				
参考文献	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)				
成績評価の方法	筆記試験、課題の評価 概論、保健それぞれ50点分をあわせて1回、50分試験をする。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員及び保健所保健師が成人看護学概論・保健について教育を行う科目				